

2. 子育て・教育分野での主な意見

子育て・教育分野
意見
<p>(1) 「地域での子育て・学び合い」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子どもが家庭・学校などの決まった人とだけでなく、多世代との積極的な交流から学びを得られる環境を作って欲しい。 ②学校をもっと開放して欲しい。卒業で終わりではなく、集まる場所になって欲しい。スクールコミュニティの取組を是非進めて欲しい。 ③地域とのコミュニケーションは、学校に地域の方が来ることが、なかなか関わりがない。高校生が、横須賀に触れられておらず、魅力的に感じられていない。交流を積極的にすることで、地域でやりたいことも出てくるかもしれない。 ④高校や学校の中に保育園があったら面白い。学校の先生達が預けられて、外部の人も集められる。そこで高校生も遊べられたら多世代の交流もできる。 ⑤米軍もあり横須賀には外国の人も多い。横須賀の学校だから英語教育が充実しているなどあればよい。 ⑥何かを教える、教わるという枠組みを超えた、共に育つ場を作れると良い。 ⑦「学校・家庭・地域が一体となる」というキーワードが一番重要になる。
<p>(2) 「柔軟な子育て支援」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①時間や利用条件の面で柔軟な保育を提供することができたら良いと思う。今は柔軟性がない印象。 ②最近、企業内にもあるが、学校に保育園があってよいと思う。 ③必ず保育園に預けるという考え方をなくして、会社に連れていくなど、身近に子どもがいる状態を作って、その時の子どもの状態をすぐ見れると素敵だと思うので、そういったことが広がればよい。 ④保育園の数だけではなく、「横須賀だとこんな保育ができる」というものを作って欲しい。「お家で子育てしてもいいんだよ」と皆が思っていて欲しい。輝くことは、外に出ることだけではなく、誰かを支えることも含まれる。そういった考えを横須賀市には持って欲しい。家にいて子どもを見ているのに、輝けないと感じて悩むお母さんは多い。
<p>(3) 「自立し、多様な人々と共に社会で活躍できる力育む教育」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①幅広い分野、世代の方々との交流によって、共に育つ子育て・教育が可能だと思う。 ②人が共に成長するという考えは共感がある。「子育て」という言葉の概念自体も変えた方が市民の方には届きやすいと思う。 ③「社会で活躍できる」は、幅広いワード。そこに横須賀らしさを加えられないか。例えば、「横須賀出身だからリーダーシップがあるね」と思われるように。AIが広がっても活躍できる人が、これから求められる人材。 ④自分の高校で、教科書中心ではなく、探索型の授業がある。すごく楽しい。小中学校は、探求するよりも記憶するだけだった。幅広い世代でそういった授業を行ってもいいのでは。 ⑤対面・ネット空間、両方のコミュニケーション能力は大事。コミュニケーション能力があることは、多様性を認めることにもつながるのでは。 ⑥最終的に、外国から来た方も「横須賀から育ててもらった」、「横須賀で育てよかった」と思っていて欲しい。ドイツのように外国の方がより溶け込むまちになれないか。 ⑦教員や生徒を見て、教育現場を動かして欲しい。 ⑧フリースクールのアドバイザーを行っているが、学校ありきの論ではなく「学校に行かない」という選択肢も含めて検討にして欲しい。 ⑨自分は横須賀の自然を楽しみながら子育てをした。自然を楽しむイベントを見つけては出かけて、横須賀の魅力を知った。横須賀にあるものをもっと活用して、教育に取り入れて欲しい。横須賀から実際に見れたり聞けるという形にして欲しい。

(4) 「デジタルを活用した教育環境」について

- ①学生のうちから、デジタル機器を持ち、触れて使う機会がないと、社会に出た時に就職等で格差ができてしまう。親の所得格差にもよってしまうと思う。そういったものが使えることは、社会の中で前提になってきている印象。
- ②一人1台の端末は、自分の高校でも使っているが、集中できなくなる人もいる。いい面もあるが、そういう面も踏まえて欲しい。
- ③学校でiPadを使い始めている。提出物もiPadを通して楽だが、暗記はiPadではやりづらい。
- ④一番大事なのは、教員が生徒・親と話をすること。事務処理で多忙なのは事実だが、生徒・親と話せる時間をとれるようにすべき。教員に余裕ができるような状況にして欲しい。
- ⑤先生と子どもの関わりを増やして欲しい。その信頼関係がしっかりしていると、学校にいても心地よく、勉強もやる気になるし、アイデアが出やすくなる。
- ⑥少人数学級は、自分は、クラスの人数が少ない分、協力しないと意識が（自分は）芽生えたのでよい。
- ⑦「図書館、博物館、美術館でのデジタル活用」は良い。うまく活用できればコロナ後に多くの人に来てもらえるのではないかと。

3. 健康・医療分野での主な意見

健康・医療分野
意見
<p>(1) 「健康・医療サービスのデジタル化」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①心拍数、歩数などがはかれる、睡眠の状況、運動量が多いなどのデータの計測は簡単だと思う。 ②高齢者が多く、また谷戸とか地形的に厳しいところに住む高齢者も多い。良い使い方ができれば、直接行かなくても早めにケアできる。 ③デジタルネイティブでない人も多い、使える人が使い方を教えるというのも良いかもしれない。お隣さんとか。 ④健康状態がデータ見られるとよい。情報が一瞬で共有できたりするし、病院でも見られると効率化できるのではないかな。 ⑤通報システム、音声情報・視覚情報でかかりつけ医に情報を提供できると医療とITの接点ができる。 ⑥効率化は良いが、情報が簡単に共有できることが良いのか、本当に正しいのか。データを最初に信じることはない、色々見て判断する。 ⑦申請書類などは簡素化されると良い、薬局はアレルギーなど色々書かれる。例えば、一つのをかざすだけで分かるような形にして欲しい、そんな世界になっていくと良い。 ⑧正直、医療分野の（デジタル）リテラシーが遅れていると言われている。医師の中には、デジタルへの抵抗感がある。「人を見る」医師として抵抗感はある、ということ。カルテのデジタル化などには抵抗感あり。
<p>(2) 「人にしかできない健康医療サービスの充実」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「人にしかできないことってなんだろう？」を考えることはとても重要。 ②社会的処方、「人の悩みを聞く、共感する」ということこそが「人にしかできないこと」ではないか、横須賀の注目されていることは「地域包括ケアができていく」こと。 ③ケアという点でみると、人がサービスするが故に「気兼ね」・「遠慮」などコミュニケーションの問題が起こることもあり、人の手でないことの方が、むしろ効果的なものもある。いかに相手のニーズを捉えるかが重要であり、何が「対面型が良いのか」がポイント。 ④診療所が「開かれたもの」になっていったら、「人にしかできない相談事」ができる仕組みができるのではないかな。そうなれば、とても良い。診療所には看護師やケアマネージャーがいる。（今後、少子高齢化が進み高齢者が亡くなって）介護者が減ってくると仕事なくなるし、医師も余る。その場合は、診療所の機能を広げていく必要がある。 ⑤専門家の時間を開ける、専門家でない人も参加できる、ということが大事だと思う。 ⑥都市に近くて、山や自然環境に恵まれている。見取りの街。「田舎」であっても快適に暮らせるということが横須賀らしい。
<p>(3) 「スポーツを通じた健康増進意識の向上」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①多世代が交流し、健康増進の意識を高めるのであれば「する」ものは多様であった方がよい。 ②楽しく参加できることが大切である。 ③体を動かすスポーツだけでなくe-sportsなら垣根がなく、地域密着でできる。指を動かすのもスポーツ、パズルもスポーツとなれば年齢差関係なくつながりができる。

4. コミュニティ分野での主な意見

コミュニティ分野
意見
<p>(1) 「持続可能なコミュニティづくり、新しい担い手」について</p> <p>①地域への流入が多くなってコミュニティの世代間交代ができるのが理想。とつきやすく、出やすい街になることが理想。</p> <p>②コロナの影響で人が人間らしく暮らせる場所や、私らしい人生を歩める場所を住む場所として選ぶ人が増える。心地よいコミュニティがある街が選ばれるようになり、結果的に、気さくな人が多い今の横須賀らしさが生かされる時代になるとよい。</p> <p>③とりあえず来てもらうためのきっかけづくりがこの先大事。土地を転々として暮らすライフスタイルも出てきている。その人たち向けに対応してもいいのでは。</p> <p>④コロナで、まだ二馬力の世帯の人たちが海を求めて横須賀に移住していく現象が出てくる。その人たち向けに、自分の親でない人に子どもを見てもらえるというのは、一つのブランディングコンセプトになるのではないか。</p> <p>⑤親ではない人に交流を求めていけるコミュニティづくりが大事。</p> <p>⑥孤独な子育ての増加、ご近所に（親も子供も）声をかけやすい地域づくりを考えると、子どもの頃からコミュニティに入っていけるような仕組みづくりは大事。</p> <p>⑦多世代交流の場は私達の世代（大学生）は意外と欲している。自分の興味に閉じずに視野を広げる機会は欲しい。</p> <p>⑧多世代で交流する機会を作るのは、何か集まるテーマがないと難しいのではないか。集まるテーマについては、楽しいことがないと物事は動かないし、わくわくすることがあるから遊びに行く、というのが基本的な感情。</p>
<p>(2) 「地元愛や横須賀らしさがあるコミュニティ」について</p> <p>①横須賀の人は外に出ていかない。地元好きで横須賀生まれ育ちの人が多いのが特徴。それらは横須賀らしいコミュニティのいい特徴になるのではないか。</p> <p>②横須賀らしさは、実は探せばいっぱいある。地元の人が気付いていない特徴がすごくある。特徴は保ちつづけアップデートして欲しい。地元の特徴を実感できるライフスタイルが、おそらく市内にない。外から見た横須賀市の特徴的なライフスタイルが中の人も気が付くようになってほしい。</p> <p>③地元で自信を持っておらず、ひっそり心の中で地元愛を隠している人が多い印象。他市の人から見た横須賀の良いところをほめてもらうなどして、横須賀の人が自信を持たないと、横須賀らしさが出てこないと思う。</p>
<p>(3) 「デジタル化とコミュニティの関係性」について</p> <p>①「人と人とのつながり」を最大化する点を最終目標にしていれば、安心。リアルな人と人とのつながりはデジタルを超えられない。</p> <p>②デジタル化により、たくさんの人がコミュニティに参加するためのツールが広がると良い。</p> <p>③デジタルが加速するからこそ、人とつながりたい人は増えている感覚。例えば若い人が高齢者にデジタルツールの使い方を教えるなど、そのような知識の交換ができるコミュニティがあれば、デジタルもリアルも充実する。</p> <p>④高齢者も多く、まずはデジタルリテラシーを底上げする必要がある。</p>

5. 防災・安全分野での主な意見

防災・安全分野
意見
<p>(1) 「自助・近助・共助・公助の強化」について</p> <ul style="list-style-type: none">①AR技術を用いて、川の水位の急激な上昇を見せ、体感してもらうコンテンツがある。こういった取り組みは、小学校教育等でも用いられてもいいと思う。そうすれば、自分ごと化に貢献してくれるのではないかな。②自助の意識の向上には、2つのハードルがある。市側がコンテンツを用意したとしても、それらに来てもらうか（注－興味を持ちコンテンツを消費しようと思うか）及び、コンテンツ視聴後、どのように具体アクションに移ってもらう道筋を作るかである。③近所にだれが住んでいるか普段は分からなくとも、緊急時には助け合いが出来るような仕組みがあること。④隣人と緊張感のある繋がり方が出来ていること。市政によって、プッシュ型の助け合いを支える公助の仕組みが同時に存在すること。⑤全てを安全にするのではなく、大事なのは市民側に選択に対する判断材料を提供し、自らの住む場所／環境を適切に判断してもらえるようにすることではないか。
<p>(2) 「デジタルを活用した、災害に強いまち」について</p> <ul style="list-style-type: none">①ITで未然に災害を予防する観点も重要ではないか。例えば道路の点検時にITを活用し、未然に災害リスクを検知したり、災害発生時のシュミレーションの一環で道路の混雑を予測する等。②データがオープン化され、最小単位の自治体でも活用できれば、災害時の近助／共助がより促進される。また、災害時は緊急性を帯びているため、プッシュ型で情報が通知されるなどの工夫が求められる。③IT活用はデータと密接に結びつく。これまで横須賀市が溜めてきた災害関連のデータをいかに有効に活用できるか。紙ベースのデータをデジタルにどうやって移行していくかは鍵になってくるのではないかな。④先進事例をいち早く導入し、他市の参考となるような事例を積み上げること。日本で一番防災が発達していること。そうすれば、副次的な効果として、子育て世帯も住みやすい街になる。⑤デジタル化が進むことで、現状のIT格差の状況によっては、IT弱者が取り残されてしまう可能性がある。

6. 都市基盤・まちづくり分野での主な意見

都市基盤・まちづくり分野	意見
(1) 「居住エリアの形成の方法」について	<ul style="list-style-type: none"> ①エリアの形成にあたって人を動かしていくとするならば、「どう動かしていくか」については、考えないといけないかもしれない。 ②コンパクトにしていく街の拠点が大切になってくるのではないかと。例えば、横須賀市であれば、横須賀中央駅周辺が中心拠点となってくるはず。 ③コンパクトにした街の周辺部の開発の在り方も考えないといけない。極端な話、中心エリアの周辺は自然に帰すといった方針もありうるだろう。
(2) 「市民とのまちづくり」について	<ul style="list-style-type: none"> ①自身が参加している町内会活動も若者が少なく、年配の方が多いため、組織が硬直的になっている部分がある。自然と、老若男女が集まれるような場所が作れないか、日々悩んでいる。 ②データを活用し、民意をどうくみ取っていくかというのは重要になっている。インフラ整備と合わせこういったプラットフォームの整備も手掛けて欲しい。 ③ミニパブリックスのように、小規模コミュニティから定期的に意見を収取する仕組みがあってもいい。 ④熱意のある横須賀市民の社会活動を、支援できるようなまちにしていく必要がある。 ⑤活動的な人間で溢れる横須賀を目指し、市政と市民の距離感の近いまちにしていく。
(3) 「都市基盤とテクノロジー」について	<ul style="list-style-type: none"> ①100年先を見据えた、“まちづくり”で他市と差別化できる都市にしていく。例えば、最先端のスマートシティを率先して実現することを目指す。 ②猿島でドローンを用いたBBQ材料の運搬を実証実験している。それに近い施策を継続的に実施して、ドローンの安定運用を目指して欲しい。 ③YRPのIT会社と協力し、高齢者にウェアラブル端末を配布し、収集したデータを健康推進のまちづくり活用するといった方針がありうるかもしれない。ヘルスケア産業の振興にも繋がるのではないかと。 ④横須賀市は平地が少ないので、高齢者の移動を支えるスローモビリティは必須になっていく。
(4) 「自然環境を活用したまちづくり」について	<ul style="list-style-type: none"> ①横須賀市には、自然が多いにも関わらず、キャンプを気軽に出来る場所がない。せっかく自然環境が多いのに、現状うまく活用できていない。 ②横須賀市の地域資源を活かすというが、周辺自治体（例：小田原市）と大きな差があると思えない。これにより結局、同じような施策になるのではないかと懸念する。 ③市民の健康増進のため自然を積極的に活用していこうという方向もありうるのではないかと。高齢者の健康増進を目的に自然豊かな公園内でのラジオ体操の効果、ウェアラブル端末を通じてモニタリングするといった実験に取り組むことも面白いのではないかと。

7. 産業振興分野での主な意見

産業振興分野
意見
<p>(1) 「今後の横須賀を支える産業」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①働く形を変えることは重要。劇的に変えないといけない。今の横須賀は小売（接客）が人気だが、労働生産性は低い。通信革命に乗ったサービスをワイヤレスで支援、VRを使った観光客の呼び込みが大事。 ②ネット申請もできない事業者がいる。世代を3つくらいに分けて、できそうな世代からやってみては。 ③通販でモノを買うのは関東圏。そこに地理的に近いことは大きな強みで、物流コストを安くできるメリットは大きい。 ④横須賀は日本の中心に位置する。コロナで通販が盛んだが、横須賀は物流コストは安く済み、工場も安くできる。物流コストを助成するなど、物流業を育成する必要がある。 ⑤農水産業を引き継ぐ人をひっぱってくる必要がある。地方から見ると、最大の消費地である東京に近い関東はうらやましい（輸送コストの面で）。農水に加えて畜産がそろうとよい。
<p>(2) 「企業誘致やサテライトオフィス、ワーケーションと横須賀の住みやすさ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①これまでYRPや日産など都心から大きな企業を呼んできた。これから横須賀に大企業が来るのはピンとこない。ワーケーション、サテライトオフィス、もしくは個人を呼び込むことは分かる。都心に通える距離なのは強み。 ②横須賀は軍港のイメージが強い（いい意味で）。しかし、本当の魅力は、場所、住みやすさ、自然。これを組み合わせることが大事。 ③自然が豊か、それでいて都心に近い。子育て、老後に過ごしやすい。コミュニティが熱い。 ④人間らしい。ゆったりしている。みなさん挨拶をする。人が温かい。 ⑤横須賀のよさが伝えきれていない。横須賀の魅力やブランドを自然、農産、水産に、畜産も加えて、組み合わせで訴求すべき。横須賀は、横須賀を知らずに来た人の方が高く評価する（特に西海岸）。 ⑥効率よく人を運ぶ手段は必要になる。EVの乗り合いやAIを使った配車システムなど。いかに早く安全な新しい技術を取り入れられるか。
<p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ①e-sportsの企業との連携は、人を呼び込むのによいのでは。どうせやるなら全国一を目指すべき。

8. 観光・文化分野での主な意見

観光・文化分野
意見
<p>(1) 「横須賀の観光資源の活用」について</p> <ul style="list-style-type: none">①横須賀の歴史は観光資源となると思う。②多彩な観光資源があるため、いろいろなルートとストーリーが作れそう。音楽・スポーツもルートに入ってもよいのではないか。③歴史というなら、造船もあって、浦賀もルートに入れたらよい。④ドックの開発。遊休地をまとめると広く使える。大規模ライブができる会場と隣接する宿泊施設など。⑤寺泊、城泊みたいに船泊、自衛隊泊、なんて出来たらマニアが殺到して抽選でもあたらなくらいヒットするだろう。⑥海を活用した、東京から（横浜川崎を経ずに）観光客を直接連れてくる高速水路があったらよい。⑦砂浜から近い駅が多いことを訴求した「海辺のワーケーション」といった観点があってもよい。⑧自転車やジョギングによる三浦半島一周。久里浜から三浦のルートが活用されていない。BMXも組み合わせ。ルートを作って聖地化。電動レンタサイクルを借りる人は、高いレストランで金を落としていく傾向にあると聞いている。⑨アニメ・映画・音楽・ゲームなどの「コンテンツツーリズム」。大洗の「ガルパン」が見本。「はいふり」が候補。⑩地元選手の活用。地元選手による横須賀案内イベントなど⑪米国人との交流（ベース体験）。ARを使った疑似体験もあり。せっかく外人がいるのに使っていない。
<p>(2) 「観光の課題」について</p> <ul style="list-style-type: none">①外から来る人に対してはストーリーが大事。物見遊山で来る人が多い。来てすぐ帰ってしまう。宿泊場所もない。②横須賀は、目的がないとわざわざ観光客が来ない。③観光の際、点在するスポットを歩いてまわるのは大変。それを補う仕掛けが必要。④食べ物をブランディングして、横須賀の食だけで観光客を引っ張るのは難しい。しかし、来てみると三方海のとてもよい場所で食べ物もおいしい。食べ物はルートの途中で楽しめるように組み合わせたらどうか。⑤おもてなしが弱いので、観光を目的に市民が一つにまとまるのが大事。

9. 海洋分野での主な意見

海洋分野
意見
<p>(1) 「港湾の活用」などについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ①物流は横浜や川崎などライバルも多く、ここに投資するのはお金がかかるため、差別化が必要。 ②洋上風力や潮力発電などは横須賀向きではない。「浦賀水道を通らなくてよい」という魅力、東京湾の入口というロケーションの活用。 ③物流・漁業のスマート化は以前から指摘されており、確実にICT導入を進めるべき。 ④北九州からの船が入るならば、その食材を加工して配送する技術を横須賀が開発するという視点が必要。
<p>(2) 「横須賀の海の魅力」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①魅力の見直しはずっとやっている印象だが、ブランディングが下手。海を活かした観光よりも、海を活かした移住に注力すべき。 ②猿島を観光施設だけとせずに研究施設にもするとよい。 ③各エリアごとに多様な個性があると思う。 ④猿島頼みではなく、新たな資源（そこにわざわざ行く理由）の発掘や、既存資源の再発見に力を入れるべき。 ⑤市内住民は市の魅力を客観視できていない。市外の人が捉える横須賀らしさに着眼すべきではないか。自然はあるが都会へのアクセスが良いなど。ブランディングが下手だから通り過ぎられてしまう。 ⑥低い山のふもとに住んでいるが、すぐに海も行ける土地はあまり多くないのでは。海と山とが近く、良い意味で包まれ感がある。 ⑦山から海への眺望がよい、谷戸の空き家がなくなり緑が多くなればなお良い。
<p>(3) 「研究や環境問題」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①まずは研究都市であることを宣言し、SDGs（海の豊かさを守ろう）など社会的価値を上げる仕組みに投資する姿勢を表明すべき。 ②研究開発機関との連携による問題解決事例を活用したブランディング（対外コミュニケーション）。 例：ビニール袋ごみ回収問題を解決、河川汚染と海汚染の問題をつなげて解決、など ③海洋プラや河川のごみなどの身近な問題から、恵まれた資源を活かした未来に繋げていきたい。

10. 環境分野での主な意見

環境分野
意見
<p>(1) 「横須賀の自然環境の活用」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①よい山や海がある、米国人が身近に住む、スポーツを楽しめる公園があるなど、横須賀の魅力は多岐に渡るが中途半端である。 ②海の眺望という観点にも着目し、オーシャンビューを意識した街づくりも必要。 ③三浦半島の中央部、東京湾の入口という地理・地形について、他都市との違いの観点から活かし方を考えるべき。 ④横須賀全体が「きれいな自然」になってほしい。 ⑤猿島を活用し、もっとイベントを行ってほしい。 ⑥来訪者向けに、キャッチーなこと以上に、住民が誇りをもって住み続ける理由を強固にすることが重要。
<p>(2) 「環境教育や環境保全」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①手つかずの荒廃した山（例：タイワンリスが増殖）を探検して学習するキャンプなどを行ってはどうか。 ②小中学生からの環境教育が必要である。（例：藤沢市では、海でゴミ拾い→アート作品づくり）。子供たちのごみ拾いを支援するNPOもある。 ③見てきれい、触れてきれいな自然を、市民と一緒にやってつくるような横須賀でありたい。 それが地元愛あふれる住民にとっての誇りとなり、来訪者にとっても移住の目的になるのではないか。 ④かつては泳げた海で今の子供を泳がせることができない、川沿いや山麓はごみだらけ。山の荒廃と海が汚れていることとの関係を知る必要がある。 ⑤海岸の流木やごみを資源化する取り組みを行ってはどうか。
<p>(3) 「公園」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①魅力的な公園があるのに（三笠公園、観音崎展望台、田浦アスレチック、菖蒲園、久里浜花の国）、外の人に伝わりきってなくもどかしい。 ②公園整備にも期待（自然豊かでありながら安心してトイレに行けるなど）。